

個別大学の入学者選抜の今

各学部が求める幅広い基礎学力に加え、「学業活動報告書」や「学びの設計書」等で学びの足跡や意欲・志を総合的に評価

研究の面白さを追求できる 資質・能力を評価

「意欲買います。京都大学」。これは同大学が2016年度に始めた「特色入試」の高校生向けポスターのキャッチフレーズだ。特色入試とは、各学部学科が実施する学力型AO・推薦方式の入試の総称。冒頭のフレーズは、学力だけではなく意欲や志も重視した選考であることを示している。同大学の北野正雄副学長は言う。

「入試に意欲という言葉は結びつきづらいかもしれませんが。成績や点数を問われることはあっても、意欲を問われることはあまりない。そこが高校生に響いたようです」

なぜ、そうしたメッセージを発する必要があったのか。

「学部学科の内容や自分の適性を考えず、偏差値だけを指標に受験先を選んだことで、入学後『こんなことをしたわけではない』と悩む学生が目立

つようになりました。入試のための勉強になり、高校で本来学ぶべきことを学んでいないケースもあります。こうしたミスマッチを解消することが最大の目的でした」

出願や推薦の要件が非常に厳しい学部学科もあるが、必ずしも成績優秀者を選択的に合格させたいわけではないという。従来の方式では、どうしても似たタイプの学生が集まりやすいため、入口を変えることで多様性を確保したいという思いもある。

特色入試では、学部学科ごとに求める人物像を掲げ、それに応じて選抜方法を工夫している。

「例えば理学部では、数理科学の分野に優れた才能をもつ人を求めています。能力測定者で4時間に及ぶ高度な数学の問題を課しているのも、集中して深く考えられる能力があるかを見極めるためです」

求める人物像は学部学科でさまざまだが、共通するのは意欲や志の強さ

があること。研究型の大学を標榜する京都大学としては、研究に面白さを見せる人に来てほしいと言う。

「研究の面白さは、誰もしたこと、見たこと、考えたこともないフロンティアを目指すところ。自分あるいは仲間にはわからない世界を切り開いていく点です。我々としては、一緒に楽しめる仲間が欲しいのです」

判断材料となる提出書類は、調査書や推薦書の他、高校での顕著な活動歴を記載した「学業活動報告書」、大学で何を学び卒業後どうしたいのかについて描く「学びの設計書」などが詳細は学部学科によって異なる。

そのうえで、基礎学力とともに個々の学部学科にとって望ましい能力を測るため、大学入試センター試験の成績に加え、能力測定者、論文試験、面接試験、口頭試問等も組み合わせ実施。AO・推薦入試とはいえ基本的な学力が担保されていることが前提だ。

「専門を突き詰めるためには幅広い

基礎学力が必要です。そして、その支えとなるのが意欲や志です。それらを両にらみしないとけません」

その点、一般入試との相乗効果にも期待をしている。

「ペーパーテストに冷たい印象をもたれる方もいますが、本当にいい問題は、解きながら理解が深まるような構造をしており、対話すら成立しています。試



副学長・理事 工学博士
北野正雄氏

取材・文／堀水潤一

図1 京都大学入学者選抜改革のステップ

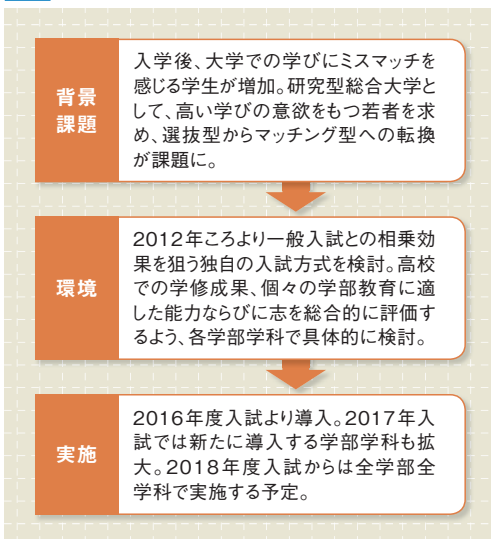




図2 京都大学「特色入試」の概要

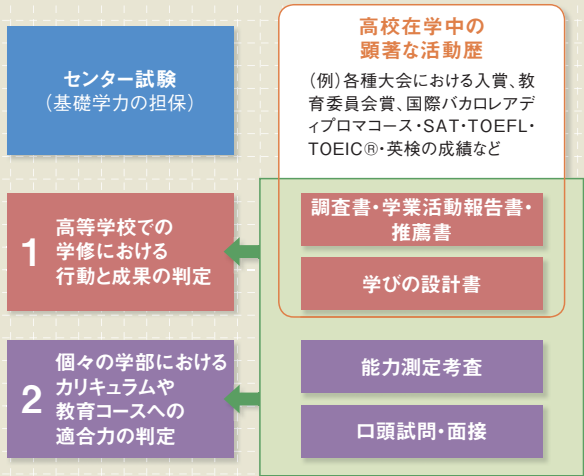
●基本方針

高大接続と個々の学部への教育を受ける基礎学力を重視し、

- ① 高校での学修における行動と成果の判定
 - ② 各学部におけるカリキュラムや教育コースへの適合力の判定
- を行い、①と②を併せて、高校段階までに育成されている学ぶ力および個々の学部への教育を受けるにふさわしい能力並びに志を総合的に評価して選抜。

①については、高大接続を重んじる観点から、高校での学修における行動や成果を丁寧に評価するため、「調査書」に加え校長等の作成する「学業活動報告書」や「推薦書」を提出。さらに、志願者が作成する「学びの設計書」等をもとに、大学で何を学びたいのか、卒業後どういう仕事に就きたいのかといった、学ぶ意欲や志について書類審査を通じて評価。

②については、学部が定めたカリキュラムの内容を修得するのに必要とされる基礎学力や個々の学部における教育コースにとって望ましい能力を重んじる観点から、書類審査に加え、大学入試センター試験の成績、学部ごとの能力測定考査、論文試験、面接試験、口頭試問等を組み合わせて実施。



※ 上記はイメージ。提出書類や選抜方法は学部学科により異なります。
 ● 求める人物像、募集人数、出願資格、選抜方法、提出書類
 学部学科により異なるため、選抜要項やHPで確認を。
<http://www.nyusi.gakusei.kyoto-u.ac.jp/tokushoku/>



「意欲買います。」というキャッチフレーズが話題になった初年度のポスター(左)。翌年度も山極総長自ら、意欲ある若者にアピール。

北野副学長が言うように、特色入試は、京都大学の入試全体のショーケースの役割を果たしている。特色入試が注目

されるのは受ける側の態度。そんなことはどうでもよく、点数さえ高ければいいという受けとめ方をされたら、どんな良問も意味がありません。その良さがわかる人に受けてほしいわけで、そうした流れを作るためにも、特色入試が発するメッセージは重要だと思っ

ています。北野副学長が言うように、特色入試は、京都大学の入試全体のショーケースの役割を果たしている。特色入試が注目されるのは受ける側の態度。そんなことはどうでもよく、点数さえ高ければいいという受けとめ方をされたら、どんな良問も意味がありません。その良さがわかる人に受けてほしいわけで、そうした流れを作るためにも、特色入試が発するメッセージは重要だと思っ

ています。北野副学長が言うように、特色入試は、京都大学の入試全体のショーケースの役割を果たしている。特色入試が注目されるのは受ける側の態度。そんなことはどうでもよく、点数さえ高ければいいという受けとめ方をされたら、どんな良問も意味がありません。その良さがわかる人に受けてほしいわけで、そうした流れを作るためにも、特色入試が発するメッセージは重要だと思っ

ています。北野副学長が言うように、特色入試は、京都大学の入試全体のショーケースの役割を果たしている。特色入試が注目されるのは受ける側の態度。そんなことはどうでもよく、点数さえ高ければいいという受けとめ方をされたら、どんな良問も意味がありません。その良さがわかる人に受けてほしいわけで、そうした流れを作るためにも、特色入試が発するメッセージは重要だと思っ

ています。北野副学長が言うように、特色入試は、京都大学の入試全体のショーケースの役割を果たしている。特色入試が注目されるのは受ける側の態度。そんなことはどうでもよく、点数さえ高ければいいという受けとめ方をされたら、どんな良問も意味がありません。その良さがわかる人に受けてほしいわけで、そうした流れを作るためにも、特色入試が発するメッセージは重要だと思っ

ています。北野副学長が言うように、特色入試は、京都大学の入試全体のショーケースの役割を果たしている。特色入試が注目されるのは受ける側の態度。そんなことはどうでもよく、点数さえ高ければいいという受けとめ方をされたら、どんな良問も意味がありません。その良さがわかる人に受けてほしいわけで、そうした流れを作るためにも、特色入試が発するメッセージは重要だと思っ

ています。北野副学長が言うように、特色入試は、京都大学の入試全体のショーケースの役割を果たしている。特色入試が注目されるのは受ける側の態度。そんなことはどうでもよく、点数さえ高ければいいという受けとめ方をされたら、どんな良問も意味がありません。その良さがわかる人に受けてほしいわけで、そうした流れを作るためにも、特色入試が発するメッセージは重要だと思っ

ています。北野副学長が言うように、特色入試は、京都大学の入試全体のショーケースの役割を果たしている。特色入試が注目されるのは受ける側の態度。そんなことはどうでもよく、点数さえ高ければいいという受けとめ方をされたら、どんな良問も意味がありません。その良さがわかる人に受けてほしいわけで、そうした流れを作るためにも、特色入試が発するメッセージは重要だと思っ

高校生と対峙する機会 互いが望む入試本来の姿

2年目を終えて手応えはどうか。「学科によって志願倍率の高低はあるものの、基本的には順調だと感じています。志願者が集まりにくい一部学科については要件を緩和するなど柔軟に対応しています。定員を充足しなかつた分は一般入試に回すため定員割れとは考えていません」

実施学部学科を広げ、募集人員も増員した2年目の特色入試。来年度は、全学部学科で実施することが決まっている。一方で、こうした入試形態は多大な労力がかかるため、志願者が多くなりすぎても対応が難しいという現実的なジレンマも抱える。「とはいえ、特色入試は、高校生と直接対峙する機会が増えるため、教員にとって非常にプラス。『こういう課題を要求したらこんな学生が来てくれた』と実感できる。お互いが望む選考であり本来の姿に近い気がします」

今後、特色入試とは別枠だが、留学生向けの特別入試も検討している。「本学では教養・共通教育を英語で提供できる体制が整い、日本語ができない留学生の受け入れ準備ができました。そこで留学生向けの特別入試を来年度から行う予定です。多様性が広がることを期待しています」

多様性という点では、学部全体の女子比率が約22%であるのに対して、今年度特色入試合格者の女子比率は約59%。文系学部の定員が多いことを考慮しても差は歴然だ。ここを起点に全体の女子比率を上げたいと話す。国による大学入学者選抜の改革と時を同じくして、多くの大学が、高校と大学の学びの接続を考える独自の取り組みを先行して開始している。

「課題研究やPBL、課外活動など、受験指導に偏らず、幅広い教育活動に取り組みされている高校を私たちも応援したい」と北野副学長は話す。